

平成 27 年 2 月 27 日

三島地域委員会

委員長 片野 健一

三島地域委員会では、二つの分科会を設置して、2年間にわたり三島地域の活性化に向けた課題や地域資源を活用したまちづくりについて、検討を重ねてきました。

その結果を踏まえ、三島地域における「地域の宝」を里山資源と次世代を担う子供たちと位置付け、「里山」と「子供たち」についての取り組みを行うことで、交通安全や防犯、防災への意識が高まり、さらには地域経済や産業の新たな展開と同時に、安全で安心な地域づくりが図られると考えます。

1 里山資源を地域の宝とするために

「里山には、お金で買えない豊かさがある。」

三島地域には、日本の原風景といわれる里山が広がっており、その面積は、地域全体の約60%を占めております。

しかし、近年は社会環境の変化により里山の荒廃が進んでいます。

里山は、整備し保全してこそ『資源』として活用ができ、防災・減災機能の回復だけではなく、交流の場へとつながっていきます。

○里山資源の整備・保全と教育

地域内では、里山資源である竹林や希少なブナ林を活かしながら、地域の魅力づくりやコミュニティ、子供たちの郷土愛醸成への取り組みを、整備活動や保全活動を通して行っている団体があり、人と人との繋がりを深めることで、地域の防災力向上にも寄与しています。

また、小中学校では、三島地域の魅力について総合的な学習やイベント等の様々な取り組みの中で、地域の里山保全などに積極的に参加し学ぶ機会をつくっています。みしま西山連峰登山マラソン大会、全日本丸太早切選手権大会、越後みしま竹あかり街道、上岩井のブナ林、蓮花寺の大杉、鳥越の学校林などが交流と学びの場として活用されています。

このような取り組みを推進することが、地域の活性化に向け重要だと考えます。

○里山資源のエネルギーとしての活用

里山としての健全性回帰の取り組みは、森林整備のための間伐材や竹等の端材を利用した薪や燃料ペレットの活用、農業用ハウス等への暖房利用による冬季間の野菜や園芸等の栽培への取り組みなど、里山再生エネルギーによる循環型社会の構築に向け、今後も研究していくことが課題であると考えます。

また、燃料ペレットの製造やバイオマス発電導入の検討など、新たな産業の立ち上げ、雇用の創出、地域の特性に合わせた付加価値のある農林産物の植栽や加工など、山林から維持管理費用が捻出できるような取り組みに繋がればと思います。

それには、里山を取り巻く地域の現状や問題点等を把握するため、地域ごとの懇談会等の開催や課題研究、里山整備のためのNPO等「受け皿組織」の結成が必要と考えます。

○里山資源を活かした循環型地域コミュニティ

里山資源を活用した「コミュニティの場」の提供により、新たな地域内外の交流が広がり、循環型地域コミュニティの促進、付加価値のある農林産物や加工品の製造・販売による多様な農作物の生産、直売所開設、特産品の開発等が期待できます。

2 子供たちの登下校の安全を考える

子供たちの安全について、日吉小学校及び脇野町小学校のPTAをはじめ、様々な団体と「登下校の安全を考えるワークショップ」を行い、三島中学校の生徒には通学に関するアンケートを行いました。それらから見えてきた具体的な課題を整理し、まとめました。

○小学校における取り組みと今後の課題

日吉小学校では、ワークショップを契機にPTA、学校、地域の方々がいち早く行動を起こしてくれました。登下校時の安全指導への参加と、親子で通学路を点検して通学路安全マップを作成するなど、次の活動に広がっています。

脇野町小学校では、ワークショップにより見えてきた事は、学校区が広く、各地区で環境や状況が違うことや冬期間の通学方法など、抱えている問題も違うという事がわかりました。

保護者の多くが児童の登下校の安全に対して何から始めていいのかわからないと感じている状況の中で、瓜生地区では昨年度、冬期間の登下校の見守りボランティアが立ち上がり、今年度も活動しています。

こうした日吉小学校や瓜生地区での活動が地域全体に広がっていくことを望みます。

○中学生へのアンケートから見えたこと

三島中学校では、生徒に通学に関するアンケートを行いました。その結果、生徒の移動手段は、自転車と徒歩が大半を占め、道路の凸凹や歩道の不備など、車で移動する大人では気付かない意見が出てきました。このような交通弱者の意見を拾い上げながら、様々な環境整備を行っていく必要があると強く考えます。

○地域全体としての課題

各学校で見守りを継続させていくためには、一人に負担が掛からないように子育てを終えた世代を巻き込むなど年代を越えた人達との連携、協力のもと、はじめは一人での見守りが多くの人達に繋がっていくような「点から始まり線となる活動」が必要だと考えます。

さらに、地域住民一人一人が、児童・生徒の登下校の安全について、交通弱者の立場など様々な視点から、自分達ができることを意識することで、活動の場が広がり、地域の宝である子供たちの安全も確保されていくと考えます。

そのためには、学校、行政、コミュニティセンター、交通安全協会、民生児童委員などが情報を共有し、連携していく必要があります。

最後に、これらの取り組みを行うことで地域が一体となって行っていく『過程』こそが重要であり、今後も市民主体のコミュニティ活動を推進し、三島地域を誇りに思う心と愛着を醸成し、安全で安心なまちづくりを進めていく事が、「地域の宝」の磨き上げに繋がると考えます。